

2022年度（2021年度実績）事務事業マネジメントシート（簡易）

総合計画
施策番号
3-1-2

事務事業名	病院経営企画事務	所属部門	公立芽室病院 経営企画係	
町長公約	公立芽室病院経営の安定化		公約達成年次	2022年
簡易シートを選択した理由	<input checked="" type="checkbox"/> 予算を伴わない事業 <input type="checkbox"/> 政策体系に結びつかない事業	<input type="checkbox"/> 計上予算が負担金・繰出金のみの事業 <input type="checkbox"/> 今後3年間で大きな変化が見込まれない事業	<input type="checkbox"/> 法定受託事務	

〔事業の概要・現状・課題〕

病院の経営理念を達成に向けた事業の推進。

今後も継続して患者が安心して医療を受けることができる体制を維持するため、医療職（医師、看護職、診療技術職）の経営に対する意識について、更なる醸成が必要。

〔2022年度及び2023年度以降の方向性・課題の解決方法〕

新型コロナウイルス感染症に関連する補助金を活用することで、2021年度は目標管理制度で定めた数値目標を未達成ながらも黒字決算となった。2022年度についても新型コロナウイルス感染症に関連する補助金等の動向を見極めつつ、病床運営を行う予定であり、病床運営状況に応じた数値目標を設定することで医療職（医師、看護職、診療技術職）の理解を得つつ、病院全体的な経営参画意識向上を図るとともに、アフターコロナに向けた病床運営について検討を行う。

また経営意識醸成に係る取組みで、前年度に行った先進地視察を通じて当院で始まった「できることから始めようプロジェクト」の事務局運営を行い、希望する職員が誰でも参加できる「全職員での経営改善」を目指したプロジェクトを推進していく。

内訳		単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
事業費 投入量	国・道支出金	円						
	地方債	円						
	その他(使用料等)	円						
	一般財源	円	0	0	0	0	0	0
	事業費計(A)	円						
人件費 投入量	正職員従事人数	人					3	3
	人工数(業務量)	人工					0.7111	
	人件費計(B)	円	0	0	0	0	0	
	トータルコスト(A+B)	円	0	0	0	0	0	

2022年度(2021年度実績)事務事業マネジメントシート(通常)

総合計画
施策番号 3-1-2

事務事業名	病院広報広聴事務	所属部門	公立芽室病院 経営企画係
町長公約	公立芽室病院経営の安定化	公約達成年次	2022年

◆ 事務事業の目的と効果

1. 手段(事業の概要)
利用者及び関連施設等への広報広聴活動

※各項目を評価するのにふさわしい指標を1つ以上設定
(必ずしも3つの指標を設定する必要はありません)

5. 活動指標(手段や活動内容を表す指標)	単位
① 町民・関連機関向け講座開催回数	回
②	
③	

2. 対象(何を対象にしているか)

町民・関係機関

6. 対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位
① 町民	人
② 関係機関	件
③	

3. 意図(この事業によって、対象をどのようにしたいか)

病院の診療に関連する情報提供及び病院職員の各職域における専門性を生かした町民・関係機関向け講座の実施等の取り組みを知つて頂く場を設けることで、病院を身近に感じることができるようとする。

7. 成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
① 外来患者数	人
②	
③	

4. 結果(意図のとおりになった場合、どんな結果に結びつくか)

病院利用者が安心して受診することができる。

8. 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	単位
① 外来患者数	人
②	
③	

◆ 総事業費・指標等の推移

内訳		単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
投入量	事業費	国・道支出金	円					
		地方債	円					
		その他(使用料等)	円					
		一般財源	円	0	0	0	0	255,354
		事業費計(A)	円				255,354	158,000
	人件費	正職員従事人数	人				3	3
活動指標	人件費	人工数(業務量)	人工				0.1463	
		人件費計(B)	円	0	0	0	0	0
		トータルコスト(A+B)	円	0	0	0	255,354	e
		(1)回					3	
対象指標	(2)							
	(3)							
成果指標	(1)	人					47	
	(2)	件					3	
	(3)							
上位成果指標	(1)	人					55,001	
	(2)							
	(3)							

◆ 事務事業の現状と今後の取組

1. 事務事業の現状と課題

2021年度は町民との連携を通して新たな医療講座を企画・作成するなど、町民のニーズをくみ取り「町民が求める情報」の提供を行うように取り組んできた。新型コロナウイルス感染症流行が続く中、出前講座やお出迎え講座などの対面での広報広聴活動は状況を見極めながらの実施としつつ、代替する形で公式ホームページやFacebookなどによる情報発信に加え、当院利用者の年齢層を意識した媒体での情報発信を継続して行っていく。また、公式ホームページの運営について、保守管理を専門業者へ委託し、当院の新たな取組みなどを町民や利用者にアクセスしやすくわかりやすいホームページとなるように取り組みを継続していく。

2. 今後の取組 (2022年度及び2023年度以降の方向性・課題の解決方法)
2022年度も前年度までと同様に新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮し、町民及び関係機関向けの講座運営は縮小しつつ推進していく可能性がある。直接対面する形での事業実施にこだわらず、公式ホームページでの積極的な情報発信やYOUTUBEやオンラインシステムを用いて健康推進情報を発信するなど、広報広聴事業を推進していく。

2022年度（2021年度実績）事務事業マネジメントシート（簡易）

総合計画
施策番号
3-1-2

事務事業名	医療相談室運営事業	所属部門	公立芽室病院 経営企画係	
町長公約	公立芽室病院の経営の安定化		公約達成年次	2022年
簡易シートを選択した理由	<input checked="" type="checkbox"/> 予算を伴わない事業 <input type="checkbox"/> 計上予算が負担金・繰出金のみの事業 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		<input type="checkbox"/> 政策体系に結びつかない事業 <input type="checkbox"/> 今後3年間で大きな変化が見込まれない事業	

〔事業の概要・現状・課題〕

入院・外来患者及び他医療機関患者に対して、医療ソーシャルワーカー(MSW)が、相談業務を実施している。

〔2022年度及び2023年度以降の方向性・課題の解決方法〕

- ・入退院支援の充実:各種加算算定に向けての必要項目を満たすよう面談・カンファレンス・計画書等の交付を実施する。患者を中心とした支援を行えるよう、多職種で情報を共有し、同じ目標を持って適切な時期に支援を行うような体制を整備する。
- ・在宅療養支援(訪問診療・訪問看護)紹介数増
- ・急性期病院からの転院依頼数増
- ・地域包括ケア病床増床
- ・関係機関との対話を大切にし、当院で展開している『介護医療連携会』の活動の継続、発展。

内訳		単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
事業費 投入量	国・道支出金	円						
	地方債	円						
	その他(使用料等)	円						
	一般財源	円	0	0	0	0	0	0
	事業費計(A)	円						
人件費 投入量	正職員従事人数	人	6	6	6	6	3	3
	人工数(業務量)	人工	1,2568	1,1802	1,1962	1,3902	1,4017	
	人件費計(B)	円	9,777,357	9,203,143	9,591,669	11,034,741	0	
	トータルコスト(A+B)	円	9,777,357	9,203,143	9,591,669	11,034,741	0	

2022年度(2021年度実績)事務事業マネジメントシート(通常)

総合計画
施策番号 3-1-2

事務事業名	病院情報システム管理事務	所属部門	公立芽室病院事務局 経営企画係
町長公約	公立芽室病院経営の安定化	公約達成年次	2022年

◆ 事務事業の目的と効果

1. 手段(事業の概要)

電子カルテシステム等の安定的な運用と維持管理

※各項目を評価するのにふさわしい指標を1つ以上設定

(必ずしも3つの指標を設定する必要はありません)

5. 活動指標(手段や活動内容を表す指標)		単位
①	委託件数	件
②		
③		

2. 対象(何を対象にしているか)

院内電子カルテシステムに関連する機器

6. 対象指標(対象の大きさを表す指標)		単位
①	管理している機器の台数	台
②		
③		

3. 意図(この事業によって、対象をどのようにしたいか)

診療時に支障なく日常業務で使用できる性能の維持

7. 成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位
①	受診者に影響を与えた障害件数	件
②		
③		

4. 結果(意図のとおりになった場合、どんな結果に結びつくか)

安定的な業務の継続による安全な医療の提供

8. 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)		単位
①	患者数(外来)	人
②		
③		

◆ 総事業費・指標等の推移

内訳		単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
投入量	事業費	国・道支出金	円					
		地方債	円					
		その他(使用料等)	円					
		一般財源	円	0	0	0	0	26,351,325
		事業費計(A)	円					24,594,000
	人件費	正職員従事人數	人				3	3
		人工数(業務量)	人工				0.0700	
		人件費計(B)	円	0	0	0	0	0
		トータルコスト(A+B)	円	0	0	0	0	26,351,325
	活動指標	①	件					1
		②						
		③						
	対象指標	①	台					279
		②						
		③						
	成果指標	①	件					0
		②						
		③						
	上位成果指標	①	人					55,001
		②						
		③						

◆ 事務事業の現状と今後の取組

1. 事務事業の現状と課題

平成14年に電子カルテを導入し、関連するシステム及び関連する機器の維持管理を行う。現行システムに付随する機器の経年劣化による故障が頻発していることから、適宜修理対応を行う必要性がある。また現行システムはOSのサポート期限が切れており、運用継続が困難であることから、電子カルテシステムの更新を行い、令和4年10月稼働予定としている。新システムは現行システムと違うベンダーが開発したシステムであることから、使用する各医療職が慣れるまで業務に支障をきたす可能性があり、各医療職で構成される「システム導入ワーキンググループ」の運営を行い、新システムへのスムーズな移行を目指す。

2. 今後の取組 (2022年度及び2023年度以降の方向性・課題の解決方法) 令和3年度から医療情報システムに特化したシステムエンジニア派遣を開始し、現行システムの維持管理に加え、経年劣化した機器について、業務に支障が出ないようにメンテナンスを行うようにしている。令和4年10月からの新電子カルテシステム稼働に向けて、各医療職で構成される「導入ワーキンググループ」の運営に加え、医療職とシステムベンダーとの橋渡しをシステムエンジニアが担い、システムを使用する医療職の利便性を向上させ、医療の質向上につなげ、患者サービス向上へと結びつけるように取り組む。